



ウトナイ湖通信

No.165

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

傷病鳥獣救護の記録を展示しています

当センター2階の市民ギャラリーで現在、「傷病鳥獣救護記録展」を開催中です。これは、2016年11月～2017年10月に收容された傷病鳥獣のうち12種について、搬入された経緯や症状、処置方法を写真などで紹介したもので、救護活動についての説明も加えています。

また、この記録展に合わせ、館内では期間限定のクイズラリーも実施中。展示を見ながら、ぜひ挑戦してください。記念のしおりもありますよ。



展示は2月25日まで。どうぞお越しください



参加記念のしおり

オオバンが越冬？

カモのように見えて、じつはヤンバルクイナと同じ仲間のオオバン。体は墨のように黒く、嘴と額は白いのが特徴です。

ウトナイ湖では毎年、主に秋の渡りの時期、多い時には

200～300羽もの数が立ち寄ります。例年は12月に入ると姿を消してしまうのですが、今季は凍っていない勇払川の流入部で、少なくとも1羽が冬を越しているようです。

同じようにダイサギも、こちらは以前から数羽が越冬しており、水鳥のくらしぶりにも変化が見られつつあります。



越冬していた勇払川は
1月25日の寒波で凍結



主に秋に立ち寄るオオバン

「世界湿地の日」記念イベントへどうぞ！

湿地の保全と賢明な利用の推進を目的としたラムサール条約。イランにある同名の都市で、1971年2月2日に採択されました。1996年からは、この日を「世界湿地の日」と定め、各国で様々な記念イベントが開催されています。

2018年のテーマは「都市の湿地を守ろう～持続可能な未来のために～」。苫小牧という産業都市にあるウトナイ湖には、ぴったりのテーマです。当センターでは、条約湿地であるウトナイ湖の自然を紹介しようと、ミニツアーやクラフトなどを予定しています。

凍り付いた湖は、一見すると生きものが何もいないような印象を受けますが、よく見ると多くの息吹が感じられます。巻末の案内をご覧ください、どうぞご参加ください。



昨年のミニツアーで、ハンノキを紹介するボランティアさん

【自然観察路情報】

2018年1月11日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

オオハクチョウ、オオセグロカモメ、トビ、コゲラ、ハシブトガラス、ハシブトガラ
シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、キバシリ、マヒワ、ワシの仲間

《植物》

ツルウメモドキ、キタコブシ、イボタノキ、カラコギカエデ(以上、実やタネ)
エゾニワトコ(冬芽)、フッキソウ(緑の葉)、ホコリタケ

《その他》

エゾシカ(足跡)



マヒワ



コゲラ



ツルウメモドキ



エゾシカの足跡

【水鳥カウント調査結果】

2018年1月18日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * ()内は個体数、(±)は「前後」の意味

コブハクチョウ(4)、オオハクチョウ(2)、ヨシガモ(43±)、ヒドリガモ(29±)

マガモ(323±)、キンクロハジロ(20±)、ホオジロガモ(5)

ミコアイサ(6)、カワアイサ(28)、ダイサギ(4)、オオバン(1)

オジロワシ(6)、オオワシ(1)、種不明カモ類(49±)



オジロワシ



キンクロハジロ



2月の自然予報



「道の駅」前の不凍域では、オオハクチョウやカモ類(マガモやヨシガモなど)が冬を越しています。ただし、この場所も凍っている場合は、遠く美々川流入部などに小さく姿があるのみ。館内の望遠鏡で探してみましょう。



オオワシとオジロワシは引き続き観察できるでしょう。氷上や対岸の樹上を探してみてください。



おススメは樹木の冬芽ウォッチング。樹木ごとに異なる形の違いを見てみましょう。堅い殻に被われたエゾノバッコヤナギの冬芽からは、早くも白い綿毛状の花芽が顔をのぞかせています。



おススメは雪の上に残った足跡ウォッチング。エゾユキウサギやエゾリス、キタキツネ、ヤチネズミの仲間などはよく見られるでしょう。



林内で見られるキバシリ

冬はハシブトガラやコゲラなどと同じ群れをつくる



ヤチネズミの仲間と思われる足跡
長いしっぽの形がくっきり残る

【ミヤマカラスアゲハ(またはカラスアゲハ)】

当センターの外壁にくっついた3センチほどの茶色い蛹。夏の間、近くにあるキハダ(ミカン科)の葉を食べる幼虫が確認されていたことから、おそらくミヤマカラスアゲハ(またはカラスアゲハ)と思われます。このままの形で冬を越し、5月頃、成虫(チョウ)となって姿を見せることでしょう。



ウトナイ湖に関するクイズ。
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q. 「世界湿地の日」の共通ロゴには、様々な「生きもの」が隠れています。さて、次の生きもののうち、描かれていないのはどれでしょう。



- (あ) トンボ
- (い) ビーバー
- (う) カエル

答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

オナガガモ

2018年 1月 12日 13:00 噴れ

苫小牧市内の工場地帯で飛べずにいたところを発見される。

体重 795g

保護初日



左翼の骨折部位



右足の骨折部位

1月12日 市職員が個体を回収し、当センターへ搬送。

初診にて、左翼(上腕骨)と右足(足根中足骨)に骨折を認める。特に右足では、折れた骨が皮膚を破り露出し、出血量も多かったため、直ちに患部の消毒および外固定による整復術を施した。

1月13日 衰弱も著しく、強制給餌を行いながら経過観察。

1月16日 回復に至らず、死亡。

オナガガモ (カモ目カモ科)

冬鳥として全国にやってきます。湖沼や河川などに生息し、ハクチョウ類の渡来地には必ずといってよいほど見られます。時に逆立ちの姿勢で水草や種子などを採食し、水生昆虫なども食べます。高齢になるとホルモンバランスの変化により、雄と雌の特徴を併せ持つものが出現し、写真の個体も雌が雄化したものと思われる。

「世界湿地の日」記念イベント

冬を楽しむミニツアー

日時：2月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、12日(月・祝)、17日(土)、18日(日)
24日(土)、25日(日) 各日①11:00~11:30 ②14:00~14:30

定員：なし

申込み：不要。当日①は10:30から、②は13:30から受付

内容：自然観察路を歩きながら、レンジャーやボランティアがセンター周辺の自然を紹介します。結氷した湖、動物の足跡、活動する小鳥などを観察しましょう。

クラフト体験

日時：2月3日(土)11:00~15:00に受付

対象：どなたでも(小学校低学年以下保護者同伴)

定員：15名(材料がなくなり次第、終了)

申込み：不要

内容：ウトナイ湖の森で拾った自然素材で、写真立てやコースターを制作します。

クイズラリー

日時：2月1日(木)~28日(水)
9:00~17:00

内容：館内に設置したクイズに挑戦していただき、参加者にはしおりを差し上げます。



市民ギャラリー

傷病鳥獣救護記録展

日時：1月4日(木)~2月25日(日)

展示：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
2階 市民ギャラリー



1・2月期間限定クイズ

傷病鳥獣救護記録展にあわせて開催中。

限定しおりもプレゼント!

◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時~午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

